

会場案内図

シルクホテル 2階 錦繡の間

〒395-0083 長野県飯田市錦町1-10 TEL 0265-23-8383 FAX 0265-24-8383



交通案内

東京方面 新宿駅西口より中央高速バスで4時間15分
名古屋方面 名鉄バスセンターより高速バスで2時間

申込方法

- 1) 申込先：公益財団法人南信州・飯田産業センター EMCシンポジウム担当：木下
〒395-0003 長野県飯田市上郷別府3338-8
TEL 0265-52-1630 FAX 0265-21-3134
- 2) 申込方法：申込書に必要事項をご記入の上、
FAXまたはE-mail(iidaemc@isilip.com)でお申し込みください。
なお、シンポジウムに使用する講演テキストは、ダウンロードによる電子データでの配布のみとさせて頂いておりますので、各自紙への印刷又はノートパソコンをお持ち下さい。
- 3) 申込締切日：10月13日(火)、ただし定員(100名)になり次第締め切りとさせていただきます。
- 4) 参加費：お一人様 20,000円
参加費の振り込みは、10月13日(火)までをお願いします。入金確認後、受講票をお送りします。

振込先：飯田信用金庫城東支店
普通口座No. 3721722 名義名：EMCイイダ(振込手数料はご負担下さい。)

※宿泊をご希望の方は、当センターにてまとめて予約しますので、お申し出ください。
なお、予約は、シンポジウム会場のシルクホテル
(別館5,700円税込(朝食付)、又は、ホテルニューシルク7,500円税込(朝食付))とさせていただきます。
その他の宿泊先をご希望の方は、飯田駅前観光案内所(TEL 0265-52-2946)に直接お問い合わせ下さい。

- 5) 東京方面・名古屋方面からお越しの場合、交通機関については高速バス又は電車をご利用ください。
高速バス時刻表URL：<http://www.shinnan.co.jp/>
電車時刻表URL：http://ekikara.jp/newdata/ekijikoku/2301072/down1_20205121.htm

(第16回)EMCシンポジウムIIDA 2015 参加申込書

F A X : 0265-21-3134 又は、
E-mail : iidaemc@isilip.com

会社名	所在地〒		
氏名	所属部課	TEL	FAX
		E-mail	
氏名	所属部課	TEL	FAX
		E-mail	
氏名	所属部課	TEL	FAX
		E-mail	
利用交通機関 自家用車・JR・バス	宿泊申込 要(別館・ホテルニューシルク)・不要	請求書発行 要・不要	備考

第16回 EMCシンポジウムIIDA 2015

～次世代技術と最近のEMC規制の動向～

シンポジウム開催のご案内

開催期日

2015年10月22日(木) 13:00から
2015年10月23日(金) 15:00まで

会場

シルクホテル 2階 錦繡の間
〒395-0083 長野県飯田市錦町1-10

最近、国内においては、原子力発電の制限による電力需給のバランスの崩れによる電力不足の心配により、省エネルギーや再生可能エネルギーへの関心が高まっています。

また、自動車や電車等の高度な電子化と大きなパワーデバイスの搭載により、EMCの関心も高まっています。今後、更にEMCに対する要求が増すことが予想されます。

そこで、第16回EMCシンポジウムIIDA 2015では、このような背景を踏まえ、次世代技術と最近のEMC規制の動向について、業界等で活躍されている方々をお招きし、講演して頂きます。

毎回好評をいただいております講師の方々及び技術者間の技術情報交流会も開催いたします。

EMC最新情報収集の場として、多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

公益財団法人 南信州・飯田産業センター
理事長 牧野光朗

主催：公益財団法人 南信州・飯田産業センター

後援：関東経済産業局、一般社団法人KEC関西電子工業振興センター
中部エレクトロニクス振興会、長野県、公益財団法人長野県テクノ財団
飯田市、下伊那郡町村会、飯田商工会議所、長野県商工会連合会南信州支部
南信州広域連合、飯田精密機械工業会、飯田電子工業会、飯伊光学工業会

開会式

13:00~13:10

開会あいさつ
本シンポジウムについて

基調講演

13:10~13:50

電波利用の現状と今後の課題

総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課長 杉野 勲

無線通信技術の進展に伴い、通信サービスのみならず、例えば、ワイヤレス電力伝送システムの実用化が期待されているなど、様々な新しい分野で電波利用が拡大している。
新たな技術を導入して電波の利用を推進するとともに、誰もが電波を安心して利用できる環境を整備するための総務省の取組を紹介する。

13:50~14:00 休憩

講演 1

14:00~15:00

2016年スーパーハイビジョン試験放送に向けた設備開発状況

日本放送協会 技術局 スーパーハイビジョン開発部 部長 三谷 公二

NHKでは、スーパーハイビジョン(4K・8K)放送の早期普及に向けて総務省を中心にして策定された“ロードマップ”を踏まえ、2016年試験放送開始を目指し、コンテンツ制作から送出・送信、受信装置に至る8Kスーパーハイビジョン設備の開発・整備を進めている。
本講演では、試験放送開始に向け、佳境を迎えた設備整備の取組み状況を中心に、東京オリンピック・パラリンピックでの本格普及を目指す8Kスーパーハイビジョンを紹介する。

15:00~15:10 休憩

講演 2

15:10~16:10

航空機内における電子機器の使用制限緩和の動向

国立研究開発法人 電子航法研究所 上席研究員 米本 成人

本講演では、航空機内に乗客が持ち込む電波を発する電子機器について、その使用を許容するために必要となる航空機の性能評価手法について概説する。また、性能評価試験の結果に応じて、航空機内における電子機器の使用制限を緩和して運用している現状について紹介する。

16:10~16:20 休憩

講演 3

16:20~17:20

電動車両に関するEMC課題と対応

株式会社 本田技術研究所 四輪R&Dセンター 第5技術開発室 第2ブロック 主任研究員 細田 正晴

地球温暖化など緊急の課題に対応するため、電動車両は年々増加の一途をたどっている。
それに伴い、システムの進化と同時に、コンポーネント数の増大、また適用車種の多様化も生じ、電磁波の発生源は増大している。
結果として様々なEMCの課題が生じるため、その対応の内容と克服するための対応手段を研究開発している。本講演ではその一部の紹介をする。

17:50~19:50

EMC技術情報交流会

講演 4

8:50~9:45

イミュニティ規格の最新動向

株式会社 東陽テクニカ 第2技術部第4課 IEC SC77B WG10エキスパート 中村 哲也

近年技術の発展に伴って通信網の発達はさらに加速して、携帯電話など移動体通信の更なる普及、電源線通信の利用など、電子機器にとって新たな環境下にさらされる機会が増加しており、このような環境下においても正常動作する電子機器の普及が望まれている。
本講演では、IEC SC77Bの取り扱う新たなイミュニティ試験規格を中心に、連続波に対するイミュニティ国際規格の最新動向について解説する。

9:45~9:55 休憩

講演 5

9:55~10:50

欧州新指令への対応について

インターテック ジャパン株式会社 EMC/テレコム事業部 小瀬村 英昭

昨年、新EMC指令、無線指令などが発効され、来年から順次適合させることが求められています。新指令への適合まで約半年、旧指令からの変更点、新指令へ対応する際に留意する点などについて紹介させていただきます。

10:50~11:00 休憩

講演 6

11:00~11:55

医療機器のEMCの現状と今後の課題

フクダ電子株式会社 EMCセンター センター長 平野 知

国内の医療機器EMC規制は、改正JISへの移行期間中で、国内市場をメインとする企業はその対応が迫られている。しかしながら、この改正JISは最新の国際規格(IEC)より2版古く、日本における規格(規格)が国際的に遅延している状況である。
本講演では、諸外国を含めた規制状況を認識し、国内企業が進むべき道を探る。

11:55~12:55 昼食・休憩

講演 7

12:55~13:50

医療機器のEMC国際規格の最新動向

GEヘルスケア・ジャパン株式会社 EMCセンター センター長 石黒 信一

医療機器のEMC国際規格IEC 60601-1-2は、前版より大幅に改訂された第4版が、2014年2月に発行された。この第4版は安全規格である通則IEC 60601-1の副通則(すなわち安全規格の一部)という側面を色濃く打ち出している。本講演では、この第4版の特徴を概説する。またIECでは、上記第4版とは別に、EMC性能試験としてIEC TR 60601-4-2の審議を進めているので、その最新の審議状況にも触れたい。

13:50~14:00 休憩

講演 8

14:00~14:55

IH調理器、ワイヤレス給電からの放射磁界シミュレーションとグランドプレーンの影響

パナソニック株式会社 解析センター 山本 竹志

IH調理器やワイヤレス給電などの設計では、シミュレーションによる放射磁界把握が非常に有用である。私たちは独自の解析手法を用いて、高周波磁界が金属に浸透するミリメートル以下の表皮深さと実際のEMI測定距離を同一モデルで解析することにより、コイルからの放射磁界を高精度に計算したので報告する。

閉会式

14:55~15:00

閉会あいさつ